



中村 真知子



谷代 克明



大掛 俊介



田口 智也



北島 広貴



岡部 大吾



寛 十蔵



佐伯 和来



由利 謙之助



吉原 清司



見上 裕昭



小池 雄介

かつて、演劇は光り輝いていました。1962年、まだ「安保闘争」の余韻が燻っている年に『真田風雲録』は上演されました。

『だが、日本にはブロードウェーを手本にしない音楽劇の流れもある。「三文オペラ」「セツァンの善人」など、社会批判性の強い劇作品で知られるドイツの劇作家ベルトルト・ブレヒトの影響を受けた、いわばブレヒト系の音楽劇だ。その先駆となったのは1962年、俳優座系劇団の合同公演で初演された福田善之作、林光作曲、千田是也演出の「真田風雲録」だった。関ヶ原の合戦から徳川体制確立までの時代をブレヒト的手法で描きつつ、そこに60年安保闘争における革新陣営内の対立の構図を巧妙に重ね合わせた音楽劇である。翌63年には、加藤泰の監督で同名の東映映画も出来た。この舞台を見て、若き日の井上ひさしは強い衝撃を受け、戯曲執筆をやめて放送作家に転向した』。(平成12年1月11日朝日新聞夕刊「舞台は語る」扇田昭彦より抜粋。)

『真田風雲録』は、それほどに鮮烈な舞台である。そして、この日本演劇史上まさに画期的な作品の影響は計り知れないものであった。時代を飛び越える福田善之の劇作術は新劇や商業演劇や大衆演劇やミュージカルの垣根を一挙に取り払ったのである。『真田風雲録』は強烈な生命力を宿した戯曲である。その生命力を岡部耕大は熱と腕力で抱き上げる。疾風怒濤の季節。『真田風雲録』は時代を超越した若者の群像劇でもある。いま、虚無感が漂う日本にこそ生きて戦うことの意味を問う『真田風雲録』の上演は熱望され、ついに実現した。林光の名曲はそのまま歌い継ぐが、舞台は斬新なものとなる。これは、まさに演劇の醍醐味である。

2000年春4月、東京に疾風が吹き荒れました。そして2001年8月、よりグレードアップされた『真田風雲録』が新宿で爆発する!!この舞台が岡部耕大の『真田風雲録』の最後の演出となります。「知って過ぎるか、知らずに過ぎるか」。君を必ず熱くしてみせる。

第3回 ユースフェスティバル 2001年8・3⑨~22⑩ 紀伊國屋サザンシアター

- 8/3⑨、4⑩ 劇団道化 『にわか師三代』 演出/熊井宏之 脚本/熊井宏之・中村芳子 音楽/上田 亨
- 8/6⑨~9⑩ 劇団青年座 『審判』 作/木下順二 演出/鈴木完一郎
- 8/10⑨~14⑩ 青年劇場 『17才のオルゴール』 原作/町田知子 脚本/森脇京子 演出/堀口 始
- 8/20⑨~22⑩ 劇団イング 『エディ』 作/藤井 任・出口彰紀 演出/藤井 任

主催/(社)日本劇団協議会 提携/紀伊國屋書店

文化庁・日本芸術文化振興会/舞台芸術振興事業

高校生パイロット募集

毎ステージ100名の高校生を抽選で招待!

〒160-0022 新宿区新宿3-35-5 沢田第二ビル4F

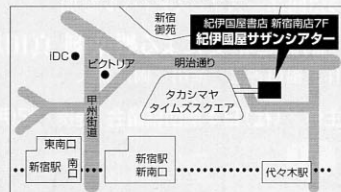
社団法人 日本劇団協議会 高校生パイロット係

○応募締切り/6月30日 ○観劇後簡単なアンケート(感想)をお願いします。

申し込み 往復ハガキ使用

○問い合わせ・前売り

岡部企画 044-933-9754 チケットぴあ 03-5237-9988 キノチケットカウンター 新宿東口紀伊國屋書店5F



望月 六郎



坂井 康浩



穴山 小助



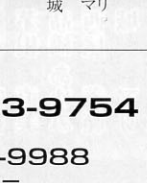
山本 真一郎



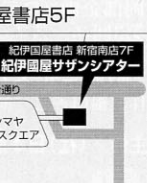
大野 修理



小林 洋貴



織田 有楽斎



岡本 正己

講釈師 城 マリ